

成人看護学援助論 I

2020 年度入学 2 年次	単位	1 単位 (30 時間)	講師	佐藤 節子	実務経験の有無
					有
I. 学習目的 看護実践の基盤となる理論を学び、看護を科学的側面から考察する基礎的能力を養う。					
II. 学習目標 1. 看護理論から、人間の健康と生活に関わる看護の科学的諸側面を学ぶ。 2. ケース・スタディを通して自己の看護実践を振り返り、課題を解決する姿勢を養う。					
III. 学習内容 1. 看護実践と看護理論 看護理論を学ぶ意義 2. 様々な看護理論①環境論 (F. ナイチンゲール) ・ ニード論 (V. ヘンダーソン、マズロー) 3. 様々な看護理論②人間関係の看護理論 (ペプロウ、トラベルビー、ウィーデンバック、オーランド) 4. 様々な看護理論③人間関係の看護理論 (ペプロウ、トラベルビー、ウィーデンバック、オーランド) 5. 様々な看護理論④セルフケア理論 (オレム) ・ 文化的ケア理論 (レイニンガー) 6. 様々な看護理論⑤中範囲理論 (危機理論、ストレス適応理論、死の受容過程、病みの軌跡など) 7. 理論の活用 8. ケース・スタディについて① (目的・進め方) 9. ケース・スタディについて② (構成や文献活用について) 10. ケース・スタディの発表① 11. ケース・スタディの発表② 12. ケース・スタディの発表③ 13. ケース・スタディの発表④ 14. ケース・スタディの発表⑤ 15. ケース・スタディのまとめ・講評					
IV. 評価方法：筆記試験 30% ケース・スタディの取り組み 60% レポート 10%					
V. 教材：看護学生のためのケース・スタディ 実践に活かす看護理論 19 メヂカルフレンド社 医学芸術社					

成人看護学援助論Ⅱ

2020 年度入学 2 年次	単位	1 単位（30 時間）	講師	渡辺 美和・大浦 比咲・小樽市立病 院看護師	実務経験の有無
					有
<p>I. 学習目的</p> <p>健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学ぶ。</p>					
<p>II. 学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動に影響を及ぼす疾病と治療、回復過程の特徴を理解する。 2. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。 3. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族が安全で安楽な療養生活を送るために必要な看護援助を理解する。 					
<p>III. 学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器疾患をもつ対象への看護① 2. 消化器疾患をもつ対象への看護② 3. 消化器疾患をもつ対象への看護③ 4. 呼吸器疾患をもつ対象への看護① 5. 呼吸器疾患をもつ対象への看護② 6. 呼吸器疾患をもつ対象への看護③ 7. 内分泌・代謝疾患をもつ対象への看護① 8. 内分泌・代謝疾患をもつ対象への看護② 9. アレルギー疾患をもつ対象への看護 10. 膠原病患者の看護 11. 血液造血器疾患をもつ対象への看護① 12. 血液造血器疾患をもつ対象への看護② 13. 感染症患者の看護① 14. 感染症患者の看護② 15. 透析療法を受ける患者の看護 					
<p>IV. 評価方法：筆記試験</p>					
<p>V. 教材：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病・感染症 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院</p>					

成人看護学援助論Ⅲ

2020 年度入学 2 年次	単位	1 単位（30 時間）	講師	渡辺 美和・小樽 市立病院看護師	実務経験の有無
					有

I. 学習目的

健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学ぶ。

II. 学習目標

1. 外科的治療を必要とする疾病と検査・治療、回復過程の特徴を理解する。
2. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。
3. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族が安全で安楽な療養生活を送るために必要な看護援助を理解する。

III. 学習内容

1. 外科的治療を必要とする対象への看護 総論
2. 外科的治療を必要とする対象への看護 各論①
3. 外科的治療を必要とする対象への看護 各論②
4. 外科的治療を必要とする対象への看護 各論③
5. 外科的治療を必要とする対象への看護 各論④
6. 手術室における看護①
7. 手術室における看護②
8. 集中治療室における看護①
9. 集中治療室における看護②
10. 泌尿器疾患をもつ対象への看護①
11. 泌尿器疾患をもつ対象への看護②
12. 泌尿器疾患をもつ対象への看護③
13. 運動器疾患をもつ対象への看護①
14. 運動器疾患をもつ対象への看護②
15. 運動器疾患をもつ対象への看護③

IV. 評価方法：筆記試験

- V. 教材：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔8〕腎泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器 医学書院

成人看護学援助論Ⅳ

2020 年度入学 2 年次	単位	1 単位（30 時間）	講師	小樽市立病院 看護師	実務経験の有無
					有
<p>I. 学習目的</p> <p>健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学ぶ。</p>					
<p>II. 学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経や感覚器、循環動態に影響を及ぼす疾病と治療、回復過程の特徴を理解する。 2. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。 3. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族が安全で安楽な療養生活を送るために必要な看護援助を理解する。 					
<p>III. 学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患をもつ対象への看護 総論 2. 循環器疾患をもつ対象の症状に対する看護 3. 循環器疾患の治療を受ける患者の看護 4. 虚血性心疾患患者の看護 5. 不整脈についての看護 6. 脳・神経疾患を持つ患者の看護 総論 7. 脳・神経疾患の手術・処置を受ける患者の看護 8. 脳・神経疾患を持つ患者の看護① 9. 脳・神経疾患を持つ患者の看護② 10. 耳鼻咽喉科疾患を持つ患者の看護① 11. 耳鼻咽喉科疾患を持つ患者の看護② 12. 眼科疾患を持つ患者の看護① 13. 眼科疾患を持つ患者の看護② 14. 皮膚疾患を持つ患者の看護① 15. 皮膚疾患を持つ患者の看護② 					
<p>IV. 評価方法：筆記試験</p>					
<p>V. 教材：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔13〕眼 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院</p>					

成人看護学援助論Ⅴ（終末期看護）

2019 年度入学 3 年次	単位	1 単位（30 時間）	講師	並木 昭義・ 笹谷幸恵・ 小松 未緒・ 小樽市立病院看護師	実務経験の有無
					有

I. 学習目的

人生の最終段階である終末期にある対象者と、その家族を取り巻く医療、看護、歴史について知り、対象者がその人らしく生活できることを支援する看護について学ぶ。

II. 学習目標

1. 死とは何かを様々な視点から考え、死にまつわる文化や終末期という言葉が持つ意味を理解できる。
2. 対象者を生活者としてとらえ、多様な特徴とニーズがあることを理解できる。
3. 終末期にある患者と家族の状況および特徴を知り、終末期医療や看護の機能と役割について理解することができる。
4. 緩和ケアの考え方や看護の役割、具体的な症状緩和に関する知識、技術について理解できる。

III. 学習内容

1. 終末期の理解
 - 1) 死について (小松 12 時間)
 - 2) 終末期、エンド・オブ・ライフケア
 - 3) 終末期における倫理的課題、アドバンス・ケア・プランニング
 - 4) 終末期医療の歴史、制度、場の特徴
2. 全人的苦痛の緩和 (外部講師 10 時間)
 - 1) 緩和ケアにおける看護師の役割
 - 2) 緩和ケア 症状マネジメントに伴う看護
 - 3) スピリチュアルケア
 - 4) 認知症、家族ケア
3. 総合医療学総論 (並木 2 時間)
4. 終末期における看護の実際 (小樽市立病院看護師 2 時間)
6. 臨死期、臨終期の看護 (小松 4 時間)
7. エンゼルケア、ビリーブメントケア

／全 15 回

IV. 評価方法：筆記試験 100%

V. 教材：新体系 看護学全書 専門分野Ⅱ 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社

成人看護学概論

2021年度入学 1年次	単位	1単位（30時間）	講師	田谷 幹子 川口 奈緒美	実務経験の有無
					有

I. 学習目的

1. 成人期にある対象者の特徴を理解し、成人各期の発達課題および健康レベルに応じた看護を学ぶ。
2. 成人の健康に影響する因子を学び、成人各期にある対象の健康を維持・増進するための基礎的知識を養う。

II. 学習目標

1. 成人とは何か、成人を取り巻く状況を理解する。
2. 成人の身体的、心理的、社会的特徴を理解する
3. 成人の健康に対する動向と健康問題について理解する。
4. 成人の健康レベルに応じた看護を理解する。

III. 学習内容

1. 成人期の特徴
2. 成人を取り巻く今日の状況
3. 成人保健の動向
4. 成人期にある対象への看護アプローチの基本
5. 健康の急激な破綻から回復を促す看護
6. 慢性的な揺らぎの再調整を促す看護
7. 障害がある人の生活とリハビリテーション
8. 人生最期のときを支える看護
9. 学習者である患者への看護
10. 主体的な治療・療養行動促進の看護
11. 治療に伴う苦痛を軽減する看護
12. 治療に伴う合併症の予防と回復促進のための看護
13. 症状マネジメントにおける看護
14. 退院支援の看護
15. がんとの共生を促す看護

IV. 評価方法：筆記試験

V. 教材：新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社

成人看護技術

2020 年度入学 2 年次	単位	1 単位（30 時間）	講師	川口奈緒美・田谷 幹子・小樽市立病 院医師	実務経験の有無
					有
I. 学習目的 基礎看護技術をもとに、検査や治療が行われる対象への看護技術を理解し、安全・安楽に実践できる基礎的能力を養う。					
II. 学習目標 1. 健康状態が変化する患者の看護が理解できる。 2. 治療・検査を受けている患者の看護技術が習得できる。					
III. 学習内容 1. 検査を受ける患者の看護（田谷 4 時間） 1) 生体検査 2. 食事の援助技術（川口 4 時間） 1) 経腸栄養 2) 中心静脈栄養 3) 末梢静脈栄養 3. 血糖管理（田谷 2 時間） 1) インスリン注射 2) 簡易血糖測定 4. 輸液（川口 2 時間） 1) 輸液ポンプ 2) シリンジポンプ 5. 周手術期における看護（田谷 8 時間） 1) 周手術期の看護過程 2) 術前・術後の看護 （1）術前・術後のフィジカルアセスメント （2）CVP 測定 （3）術創 （4）ドレーン管理 （5）人工呼吸療法 3) 事例を用いた演習（田谷・川口 6 時間） 6. 救急救命技術（小樽市立病院医師 4 時間） 1) AED による蘇生法（演習） 2) 止血法 <p style="text-align: right;">／全 15 回</p>					
IV. 評価方法：筆記試験 80% 事例を用いた演習 20%					
V. 教材：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア					